

# 伊達市版ネウボラによる連携

妊娠期からの切れ目のない支援  
そして親子が笑顔になる架け橋

伊達市 こども部ネウボラ推進課

# 伊達市の概要

□面積 265.1km<sup>2</sup>

□地勢 県都福島市に隣接  
森林、農地が65%

□人口 56,404人(R6年3月)

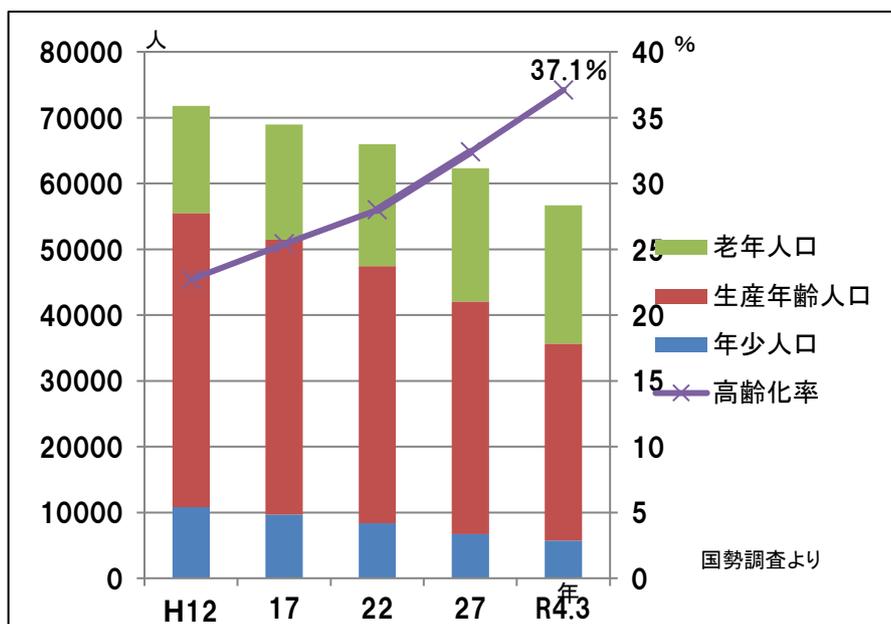
年少人口 18.25% 老年人口 37.0%



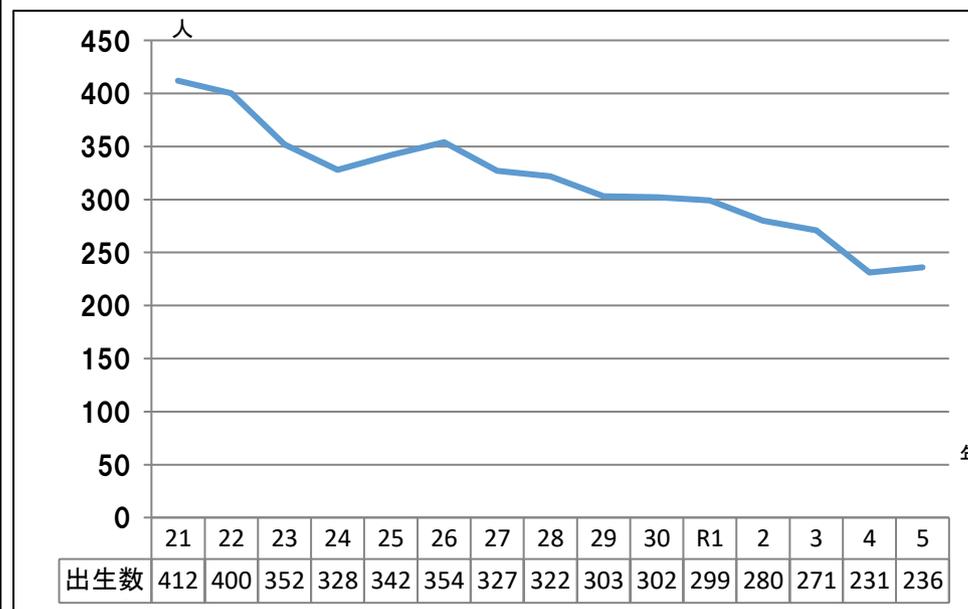
□出生数 R5年 236人

合計特殊出生率 1.25(H30年~R4)

人口の推移



出生数の推移



# 取り組みの経過

平成27年3月 「伊達市子ども・子育て支援事業計画」策定

利用者支援事業を明記

平成28年1月 「伊達な地域創生戦略」策定 伊達市版ネウボラの構築

平成28年 児童福祉法等の一部改正(平成29年4月1日施行)

・理念の明確化、児童虐待発生時の迅速・的確な対応(子ども家庭総合支援拠点の整備)

・母子保健施策を通じた虐待予防、子育て世代包括支援センターの法定化

平成29年4月 「伊達市版ネウボラ事業」の開始

子育て世代包括支援センター「にこにこ」オープン

伊達市版ネウボラ事業の主管課:健康福祉部健康推進課ネウボラ推進室

令和3年3月 「子ども家庭総合支援拠点」の開始

令和3年4月 「健康福祉部健康推進課ネウボラ推進室」から

「教育委員会こども部ネウボラ推進課」となる

伊達市版ネウボラ事業の主管課:こども部ネウボラ推進課

令和5年 4月 こども家庭庁設置 こども基本法施行  
12月 こども大綱

令和6年4月 「こども家庭センター」の開設

「伊達市元気な子ども・みんなの子育て条例」 施行

# 組織体制

R6度体制

## 伊達市版ネウボラ

市長部局

教育委員会部局

健康福祉部

こども部

教育部

\* 他4課あり

健康推進課

兼務辞令

ネウボラ推進課

兼務辞令

こども未来課

学校教育課

課長兼こども家庭センター長(事務職)

\* 他2課あり

- ネウボラ保健師11名栄養士1名、助産師(会計年度)2名が所属
- ネウボラ保健師、栄養士にはネウボラ推進課兼務辞令あり
- 保健師の業務形態は地区担当制と業務担当制を併用

統括支援員が所属

ネウボラ推進係  
(母子保健機能)

こども家庭相談係  
(児童福祉機能)

発達支援係

子育て支援係

幼保指導係

企画管理係

保健師2名  
心理士1名  
相談員3名

事務職2名  
社会福祉士2名  
こども家庭相談員3名

保育教諭3名  
言語聴覚士1名  
発達支援コーディネーター1名

事務職5名

保育教諭3名

事務職3名

\* 他2係と保育園、認定こども園、幼稚園あり

こども家庭センター

# 伊達市版ネウボラ事業の取り組み

①切れ目のない支援を行うための職員の配置

②子育てを社会で受け入れる取り組み

③産後の支援の強化

④きめ細やかな相談機会の充実

⑤こどもの育ちを促す取り組み

⑥子育てを楽しむしくみの構築

⑦保健・福祉・教育の連携の強化

# ①切れ目のない支援を行うための 職員の配置

## 取り組みの特徴

- ・ネウボラ推進課に、保健師(2名)・相談員(3名)・公認心理師(1名)を配置。ここに所属している保健師が統括支援員の役割と伴走型支援の統括をし、乳幼児期の子育て家庭の全体像を把握。
- ・健康推進課(保健部門)にネウボラ保健師(11名)・助産師(2名)を配置。⇒併任辞令  
ここに所属している保健師が伴走型支援の実務を担う。
- ・ネウボラ推進課以外の児童福祉部門へ併任辞令を発令。

## 具体的な取り組み

- ・ネウボラ保健師を中心とした切れ目のない支援  
妊娠届時に担当ネウボラ保健師が面接  
原則、小学校入学まで同じ担当とする(あなたの担当保健師)
- ・連絡を取りやすい体制をとる  
ネウボラ保健師・助産師・相談員は携帯電話をもちアクセスしやすくする  
ネウボラ名刺をお母さんに渡す
- ・ネウボラ保健師によるセルフプラン、サポートプラン作成  
生活習慣病予防を視野に入れた取り組み



## 取り組みの効果

- ・相談先が明確になり、相談しやすいとの声がある
- ・継続的なかかわりをもち信頼関係を築くことでネウボラ保健師が支援しやすくなった
- ・様々な職種が重層的にかかわることで支援の幅が広がった

## ⑦保健・福祉・教育の連携の強化

### 取り組みの特徴

- ・こども部(児童福祉)は教育委員会内に所属している
- ・実務を行う職員にネウボラ推進課の兼務辞令を発出している

### 具体的な取り組み

- ・「伊達市総合計画3次総合計画」「伊達市教育大綱」に伊達市版ネウボラ事業を明記
- ・「伊達市元気な子ども・みんなの子育て条例」(R6年4月)を制定し、庁内横断的な事業を検討
- ・「こども家庭センター」をネウボラ推進課内に配置
- ・庁内関係部署が参加する定例会を実施。市が子育てで大事にしたいことを共通理解する
- ・「すこやか伊達っ子『子育て・就学』相談支援事業」(R5年度開始)により児童福祉、幼児教育、学校教育の連携強化
- ・保健と幼児教育で「伊達市の目指す乳幼児像」を明確にしながらか連携を強化  
(幼児期までのこどもの育ちにかかる基本的なビジョンの活用)

### 取り組みの効果

- ・こどもの育ちを連続してみることが可能。そのため、スタッフがこどもたちの将来の自立を目指した施策を意識するようになってきた
- ・学校で起きている課題等の明確にし、妊娠期から対策を立てられる(予防を重視)
- ・各部門の連携体制が築かれているため、特に支援が必要な子育て家庭へそれぞれの専門性を発揮し連携してかかわることが可能である

# 伊達市における連携のポイント

## ○管理職を巻き込む

○それぞれの職種の専門性、役割をそれぞれが理解している

職種によって見立ても違う。そこを理解していないと「どうしてわかってくれないの?」という思いが出てしまいがち。

## ○連携の考え方を共有している

「私が連携しなくてはならない」と考えると負担。それぞれの持ち場でやることやって持ち寄る、または、つながりやすい、つながりやすいところが中心となって動く連携の負担感が減る。

## ○情報の共有は早めに行う

必要とする情報のレベル(リスクの度合い等)は部署により様々。気軽にタイムリーにできる仕組みがあるとやりやすい。

## ○顔の見える関係が築ける体制である

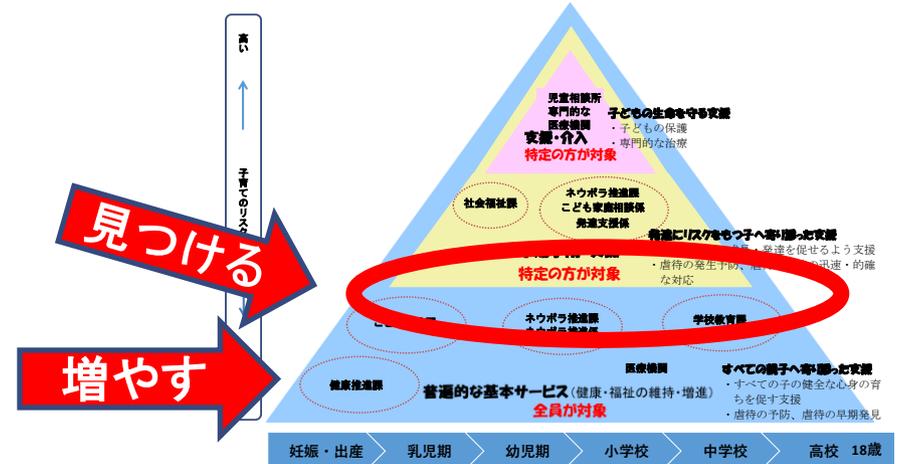
顔が見える関係を築けば気軽に相談等ができる。でも皆が気軽に声をかけられるわけではない。それならば定例会等の開催により顔見知りになれる機会をつくる。

## ○職員が安心して支援できる体制づくり(支援者に負担感を与えない)

職員が支援を相談できる、一緒に考えることができる体制の構築と人員配置は大切。

## ○コンセプト(支援の考え方、目指す姿)を共有している

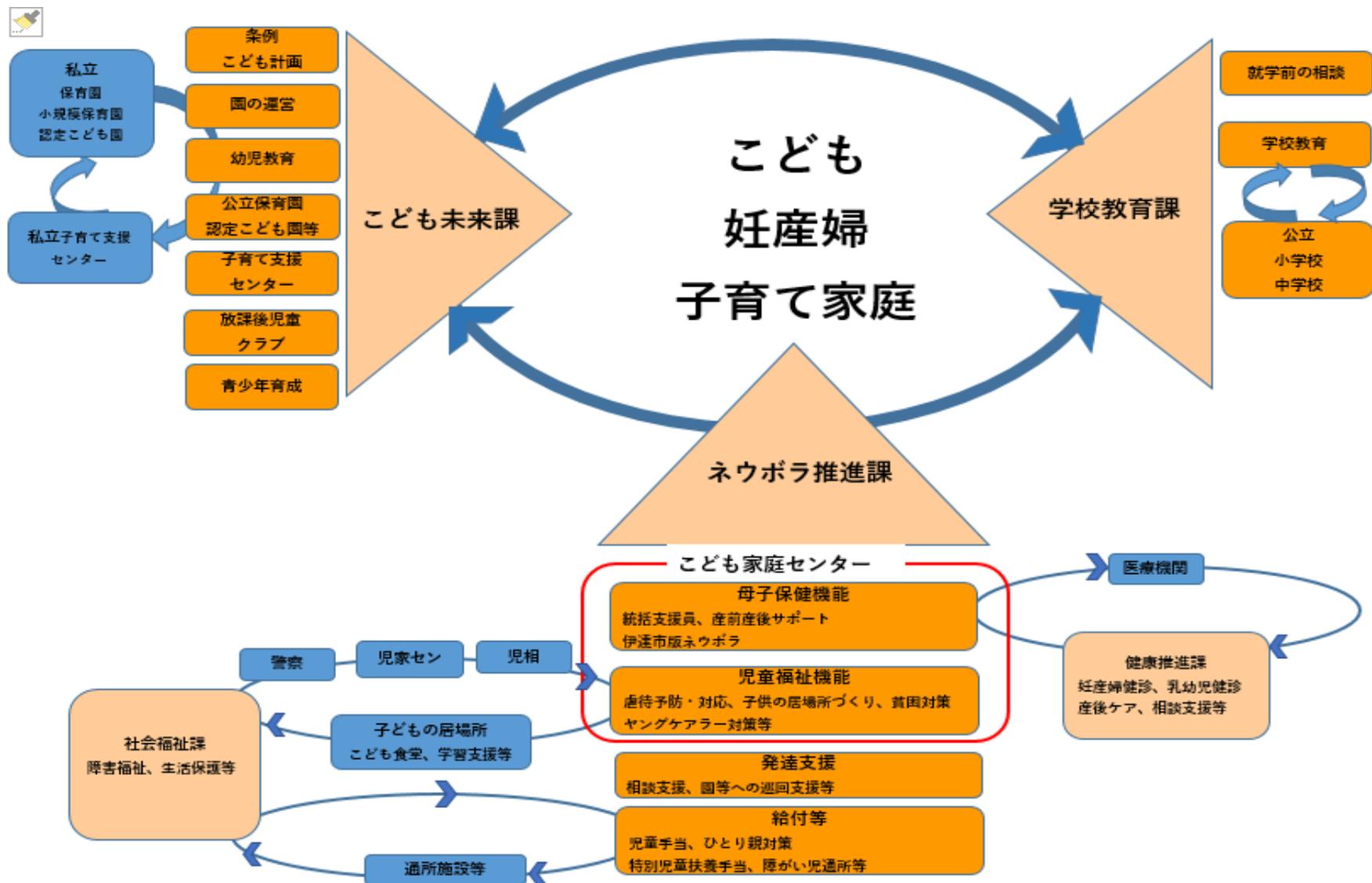
伊達市版ネウボラはリスクなし層を増やす(普遍的な基本サービス)、リスクを芽のうちにつむ(母子保健機能、児童福祉機能)の2つの考えのもと推進している



また、「幼児期までのこどもの育ちにかかる基本的なビジョン」をもとに「めざす伊達っ子の姿」を作成。保健部門と幼児教育部門が共通の言葉で目指す姿を理解できることを目指す。

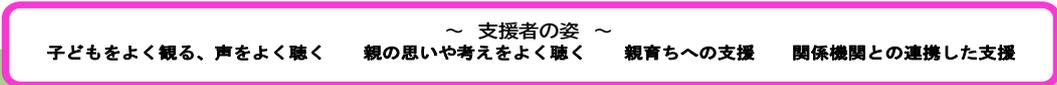
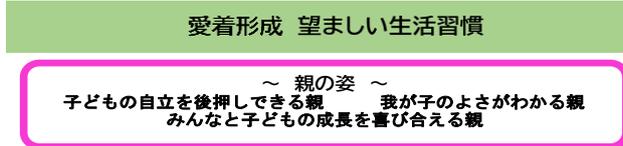
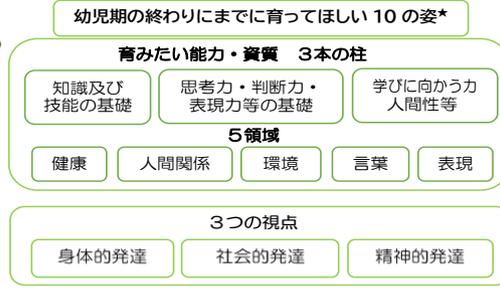
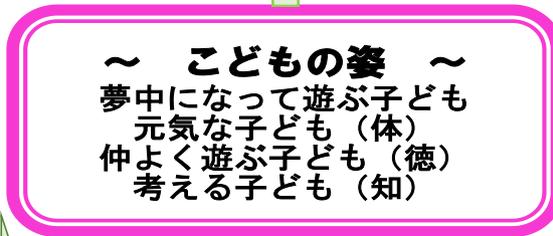
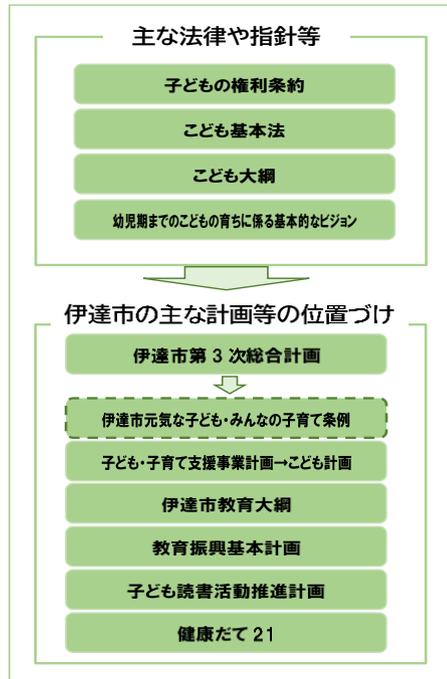
そして、考え方等は自由に語り合える場や雰囲気があると顔の見える関係性が築けて様々なことが共有しやすい。

# 伊達市の連携体制



# 幼児教育との連携

## めざす伊達っ子の姿 ～親子が笑顔になる～



ウェルビーイング  
心も体もニコニコで生活も充実!

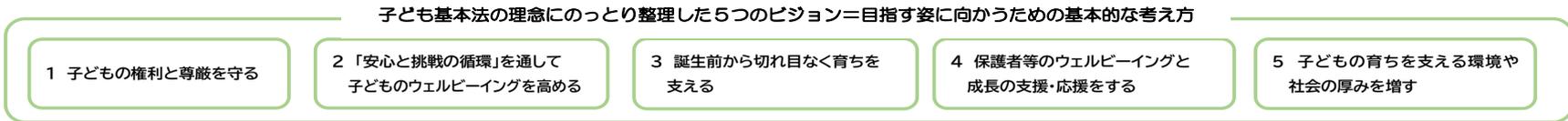
自立に向けて



「遊び込む経験」が 「学びに向かう力」へとつながる

子どもの育ちを中心に据えた 切れ目のない連携・支援

- \*10の姿
- 健康な心と体
  - 自立心
  - 協同性
  - 道徳心・規範意識の芽生え
  - 社会生活との関わり
  - 思考力の芽生え
  - 自然との関わり
  - 数量や図形、標識や文字 などへの関心・感覚
  - 言葉による伝え合い
  - 豊かな感情と表現



# サポートプラン 福祉では(問題解決型)

取り組む思い(初めは…)

取り組む思い(今は！)

支援者から見た課題と、対象者の思いに**差がある**よね～。

手渡し…。今まで必要な書類等しか手渡ししたことがない。  
**不安**

プラン、次のアクションが、こどもや親の負担、宿題になると、次に**会えなくなってしまう**危険性がある

支援者は裏プラン(支援方針)はあるけど。対象者が自覚してない**ニーズをどう引き出せばいい**のか

対象者と支援者同士(共通理解)で、困っていること、できることを話し合おう

裏プラン(支援方法)は念頭に置きつつ。直近で解決したい課題・取り組めることを引き出してみよう。

解釈のズレを防ぐため、対象者本人の言葉で書いてみよう。



# サポートプラン 保健では(予防型)

## 取り組む思い(初めは…)

今まで支援プランを立てることは慣れてたけど、課題を認識し支援するのって**プランにおこさず頭で考えて**支援してきたことが多かったかも

乳幼児期を基盤として支援してきたから、「こどもができること」**こどもの意見という視点がなかった**かも。



## 取り組む思い(今は！)

今までどおり。会う、話をする、相談しやすい**関係性**を作ることが1番だね

サポートプラン、こどもができること。親ができること。**気持ちを聞く**ことが大切

不安の芽、心配の芽を**摘む**ことよ✿



# サポートプラン

## 目的 機能

- ①行政機関による支援対象者の把握・明確化や、必要な支援の種類・内容を決定し、これらに関係者間で共有することで、効果的な支援につなげる
- ②支援対象自身が、自らの抱える課題を認識するとともに、活用できる支援策を知ること  
で計画的な利用を促す



サポートプランって必要な時につくる。分かってはいるけど、悩む……。言語化が難しい、丁寧に書かなければ、関係がないと書けない、支援者が言い過ぎな表現にならないか、言われた感にならないか、切り込んだ話しもするし、アセスメント力、すぐ手交できない、とにかく不安、お互いの気持ちを知るためのツール……



## すべては！信頼関係 子ども・親が真ん中

支援者側：顔をうる、足を運ぶ、話しやすい環境を作る、ほどよい距離感  
対象者側：顔を知る、話をしたいと思う、ほどよい距離感

# サポートプラン

伊達市サポートプラン

作成日 年 月 日 配布 済 ・ 未

[市保管]

[お子様]

[保護者様]

お名前 様

お名前 様

生年月日 年 月 日 (年齢 歳/学年 )

お名前 様

伊達市子ども家庭センター「にこにこ」  
住所：〒960-0634  
福島県伊達市保原町大泉字大地内1 00  
Email：neuvola@city.fukushima-date.lg.jp

お子様が健やかに成長し、ご家族も安心して子育てができるよう、お子様・保護者様のお気持ちをもとに、これからできることなどをサポートプランを使いながら一緒に考えます。

あなたが困っていること・心配なこと	担当者が心配なこと
あなたがこうなったらいいと思うこと	担当者が目指したいこと

担当者名	ネウボラ保健師 ・ 社会福祉士 ・ とも相談員 ・ ( ) 氏名： 連絡先：	ネウボラ保健師 ・ 社会福祉士 ・ とも相談員 ・ ( ) 氏名： 連絡先：
目標 (なりたい姿)		
お子様が 今できそうなこと		
保護者様が 今できそうなこと		
支援者が お手伝いできること		
今後利用する サポート・事業など (時期・頻度・時間など)		
備考		

次回のお約束 ■時期： 年 月 日 ■内容：

(次回お会いした際もプランを振り返り、一緒にお話をしていきます。次回のお約束前でも、ご相談がありましたらお気軽に担当までご連絡ください。) 伊達市 (R6.4)

# 合同ケース会議

①定期(月1回)

②臨時(随時)

③すぐ話そう会(随時、毎日)



定期・臨時	4月	5月	6月	7月	8月	計
開催回数	1回	2回	2回	1回	3回	8回
ケース 件数 (対象者 内訳)	1件 (産婦1)	5件 (妊婦2) (産婦1) (小学生1) (中学生2)	4件 (妊婦1) (産婦1) (幼児1) (小学生1) (中学生2) (父親1)	1件 (妊婦1)	3件 (産婦1) (乳児1) (幼児3)	14件
参加者	5人	16人	14人	4人	18人	57人
	<p>●定期・臨時参加……総括支援員(保健師)、こども家庭相談係長(事務職) 地域母子係長(保健師)、ネウボラ保健師、社会福祉士</p> <p>●必要時参加……発達支援係長(保育教諭)、公認心理師、相談事業所</p>					
連携機関	医療機関、幼稚園、学校					

# 伊達市版ネウボラにおける連携の 取り組み効果と課題

## 取り組み効果

### ○保護者が安定して子育てに向き合うことができ、結果として子どもの 良い育ちが促されている

- ・妊娠期から切れ目のない支援、寄り添う支援を行うことで、保護者の不安が小さなうちに対処することができる。結果として、大きな問題になる前に解決され保護者が安定して子育てができる。(リスクを芽のうちにつむ)
- ・保護者の気持ちが安定すると子育てを前向きに取り組むことができ、親育ちと子どもの良い育ちが促される。
- ・出産・入園・入学等の成長の節目は親子ともに乗り越えるのが大変な時期となるが、以前より親子ともに落ち着いて対処できているように感じる。

### ○子どもの発達段階、成長段階に合わせて「めざす伊達っ子の姿」を推進できる

- ・様々な専門職が、それぞれの専門性を発揮しながら一貫性をもった支援ができるようになった。

### ○保健・幼児教育・児童福祉・学校教育の連携の強化により支援者の気づきが増えた

- ・支援者が関わっている場以外の「子どもや家庭の様子」がわかり、子どもの成長や保護者の思いや願いに寄り添った支援をより意識することができる。
- ・信頼関係が構築されると保護者の受け入れもよくなることを支援者が実感でき、さらに「子どもが真ん中」の支援を進めることができる。
- ・各専門職の視点がわかるのでその時に最適な支援先へつなげることができるとともに親自身が様々な相談機関を選べるようになった。

## 課題

### ○地域の子育て支援の強化

### ○支援の質の向上

# ～みんなが笑顔になる架け橋となるために～ ご清聴ありがとうございました

**伊達市**  
Date City

人と緑と歴史が結び合う  
ひかり輝く田園空間・伊達市

観光情報

子育て・  
ネウボラ

移住・定住

伊達市5月号広報紙  
「こども家庭センター」  
ぜひ、ご覧ください◎

<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/uploaded/attachment/65638.pdf>